

表6 昭和61年度県文化センター事業

区分	事業名	期 日	場 所	内 容 (出演者・演目等)	参加入場 人 員
自 主 文 化 事 業	文化庁移動芸術祭巡回 歌 舞 伎	11月7日	県文化センター 大ホール	(出演) 松竹歌舞伎 片岡孝夫、中村勘九郎他 (演目) 梶原平三誓石切	未実施
	交 響 楽 の タ ベ	11月13日	県文化センター 大ホール	(楽団) 新日本フィルハーモニー交響楽団 (指揮) 大友直人 (ピアノ) 高橋裕希子	未実施
	少 年 劇 場	6月3日～20日	福島市ほか 県内15会場	(出演) 劇団ひまわり (演目) くびなしほていどん	23,391
	親 子 劇 場	7月13日	県文化センター 大ホール	(出演) 劇団飛行船 (演目) ながぐつをはいた猫	3,800
主 文 化 事 業	福島県洋舞の祭典	4月27日	会津若松市民会館	(出演) 福島県洋舞連盟所属団体 約200名	1,100
	福島県吹奏楽 トップコンサート	6月15日	いわき市 平 市 民 会 館	(出演) 昭和60年度福島県吹奏楽コンクール上位入賞団 体	1,400
	福島県三曲演奏会	5月11日	県文化センター 大ホール	(出演) 福島県三曲連盟各支部会員 約200名	1,000
業 事 業	文 化 講 座	(郷土史) 7月 26日～8月10日 (放送利用等) 年 間	(郷土史) 県文化センター (放送利用等) 県文化センター	(郷土史) 郷土の歴史を一流講師陣により講義する (放送利用等) 放送を利用した学習講座 ①文学 ②法学 ③東洋史	568 会員 108
	文 学 講 演 会	10月11日、12日	福島市・相馬市	(講師) 東京大学助教授 三角洋一 研究報告6名	190
	地 方 史 研 究 講 習 会	10月24日、25日	県文化センター	(講師) 早稲田大学教授 深谷克巳	162
	古 文 書 研 究 講 習 会	7月22日、23日 62年2月	本 宮 町 いわき市 文化センター	(講師) 明治大学助教授 神崎彰利	115 未実施
	展 示 事 業	近世農民一揆資料展	10月1日～ 11月30日	県文化センター	近世初頭から幕末・維新期までの本県諸藩・幕府直轄で 発生した農民一揆に関する資料を展示
普 及 奨 励 事 業	映 画 教 室	(一般向) 奇数月第3日曜日 (児童向) 夏休み中毎土曜日	県文化センター	(一般向) 芸術・科学等文化映画及び劇場用名画の上映 (児童向) 「夏休み子ども映画教室」として映画を上映	実施中 1,910
	地域文化振興協力事業	年 間	県内各市町村	文化情報・資料の収集、これらの蓄積を通じ文化事業に 対する協力体制の拡充をはかる。又県内各市町村が行う 講習会等へ講師を派遣する。	実施中
委 託 事 業	(音楽公演) 家庭劇場	9月24日～26日	大越町ほか	(音楽) 「ミュージカルアカデミー歌のひろば」 出演 ミュージカルアカデミー	4,254
	(児童劇公演)	9月5日～20日	17町村	(児童劇) 「青い目のロバ」 出演 楽劇団いちよう座	7,419
	文化庁移動芸術祭 (広報活動)	11月7日 11月12日	県文化センター いわき市 平 市 民 会 館	(福島) 「松竹大歌舞伎」 (いわき) 「能・狂言」・紅葉狩(喜多流) ・瓜盗人(大蔵流)	実施中

と二つの幼・児童、生徒向けの舞台芸術が多く、感動を残して終了したのをはじめ、各種の講座、普及事業などが好評のうちに終了した。

## 十二、福島県立美術館

開館三年目に入った福島県立美術館は、企画展を中心に県民期待の文化施設として定着し、上半期の館利用者数は予想をはるかに上回っている。

昭和六十一年度の美術館事業の概要および予定は次のとおりである。

### 1、企画展

#### (1)「大原美術館所蔵品展」

四月十九日～五月十八日  
大原美術館所蔵の日本近代洋画に焦点をあて、関根正二、藤島武二、青木繁、安井曾太郎、梅原龍三郎らの百点の名品を紹介した。

#### (2)「浮世絵名品百選展」

五月三十一日～六月二十九日  
リックカー美術館所蔵の百点の浮世絵(重要文化財、重要美術品多数)により、江戸時代後半に隆盛をきわめた庶民の美術文化を探るものであった。

#### (3)「いわさきちひろ展」

七月十二日～八月二十四日  
数々の名作を生み、絵本芸術の可能性を切り拓いて、幅広い愛好者を獲得した「いわさきちひろ」の画業を絵本原画により回顧した。